

一般社団法人

全国

若年認知症家族会

支援者連絡協議会だより NO.8



若年認知症とは、「18歳から64歳の年齢で発症した認知症の総称」です。

平成29年度に全国調査が行われ、調査時の年齢が「65歳未満の患者さん」の数は全国で3万5,700人存在すると報告されましたが、その時点で「65歳を過ぎて闘病されている患者さん」も同程度確認されましたので、実際は若年発症の患者さんが全国で7万人前後いることとなります。

topics

- ・挨拶
- ・各地の会員団体の紹介
- ・フォーラムをおえて
- ・委員会からのお知らせ
- ・赤い羽根
- ・あとがき

挨拶

新年早々、能登半島においては震度7という想像を超える地震に見舞われました。災害に遭われました皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

本年も皆様と共に、幸多い年になるようにと願い、より良い活動をおこなっていきたくと思います。

さて、去年は、全国若年認知症家族・支援者連絡協議会にとっても大きな意味を持つ法案が成立いたしました。一昨年から認知症基本法案の議連に当協議会も参加し、昨年1月には、認知症基本法案への提言を、認知症関係当事者・支援者連絡会議メンバーとしておこないました。5月9日は、超党派の議員による会議が行われ、国会に提案される方向となり、6月8日成立の公算が大きくなり、6月14日「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」案が参議院本会議で可決、成立しました。6月16日公布となりました。基本理念は7つあり、①本人の意向尊重②国民の理解による共生社会の実現③社会活動参加の機会確保④切れ目ない保険医療・福祉サービスの提供⑤本人家族等への支援⑥予防・リハビリテーション等の研究開発推進⑦関連分野の総合的な取り組みです。認知症施策を推進するためには、国や自治体の責任を明らかにすることや認知症施策推進についての計画を決めること等が重要になってきます。本年は、昨年になした法案を、都道府県・各市町村等で、よりよく実施されるように、当協議会の各メンバーが行動をしていくことが大切になります。例えば、去年の補正予算案の中に、共生社会の実現を推進するための認知症基本法に基づく都道府県・市町村の認知症施策推進計画の策定支援 6.3億円が記載されています。実施スキーム予算としては、都道府県500万 市町村200万 10分の10となっています。補正ということは、令和5年年度で行うことが予定されますが、このような予算の協議申請を各自自治体がおこなっているのか、各団体の所在地に確認をしてみたいかでしょうか。ちなみに、申請期限は昨年12月上旬で締め切られています。実施案件としては、認知症基本法についての理解・当事者と家族の意見を聴く場等や、冊子や窓口設置などの促進事業となっています。全国組織での行動によって得た結果から、その後各団体が地元で行動し、目の前の当事者の皆さんの生活がより良いものになるようにしていくことが重要です。

また、昨年は、全国若年認知症フォーラム大阪・東大阪（3月）と福岡（11月）で行われ、新たな若年認知症の関連情報を発信し、赤い羽根の助成金により、家族会の立ち上げ支援もおこなってきました。

理事も新理事の体制に変わり、新しい委員会体制も発足しました。本年は、昨年からの活動継続や、認知症基本法の効果を身近に感じることができるよう活動等を、当協議会のメンバーで力を合わせ、より良い社会に近づけるよう努力していきたいと考えています。

皆さま。本年もみんなで力を合わせ、楽しみながら前に進みましょう。

代表理事 宮永 和夫

各地の会員団体の紹介

NPO 法人マイ Way 神奈川県川崎市

e-mail:orange.time@myway-npo.org（渡辺）

ホームページ：<https://www.facebook.com/myway.orange.time>

2013年3月、市内の「若年認知症家族会」から1人の男性を紹介されたことがきっかけで活動が始まりました。当時、精神や知的など他の障害をお持ちの方の就労支援を行っていましたが、ご本人の「働きたい」想いが強く自分のやれる仕事や社会との関わりを求められていました。障害の違いはあっても「働きたい」というニーズに応えられる方法はないかと、就労継続支援B型での受け入れを始めました。

活動は、親会社でもある「日本ヴォーグ社」や企業から仕事を受託して行う室内での軽作業を中心に、菜園で野菜や花を育てたり、「大人の社会科見学」に出かけるなど、メンバーさんの「やりたい！」「行きたい！」想いの実現に向けた活動をしています。2023年から「自家焙煎珈琲」作りも始めました。毎月の「これから会議」（本人ミーティング）や講演会でのメッセージ発信、啓発活動にも積極的に参加しており、「働く＝賃金労働」だけでない、社会貢献や社会参画など、その人なりの“はたらきかた”を一緒に考えていくようにしています。

メンバーさん一人ひとりの想いや目的が違っていても、「ここに来れば皆に会える」「ああ、今日も疲れたな～」と笑顔で帰ってもらえることを、一番大切にしています。設立より12年目を迎え、これからもメンバーさんと一緒に日々チャレンジしていきたいと思えます。



「ここに来なかったら退屈していた。家の中でずっと一人でいても緊張感がない。電車に乗って出かける方が良い。何故なら、周りの目があるので、この緊張感が非常に重要だと思います。シンドイ時もあるけど、今のペースがいい。充実している。丁度適度な環境ですし、楽しくかつ、充実した日々を送ることができています。

（Aさん 60代男性）」

「ここに来るようになって、自分も頑張ろうと思えるようになった。だって「応援してくれる人」がいるから。友達もできたし、安心できる。認知症になったのは残念だけど仕方ない。くよくよしないで前を向こうと言う気持ちになれた。（Bさん 50代女性）」



第14回全国若年認知症家フォーラムをおえて

第14回全国若年認知症フォーラムin福岡は、令和5年11月19日にハイブリット開催されました。会場（福岡市認知症フレンドリーセンター）と、zoomでの参加者で行いました。テーマは、若年認知症×認知症フレンドリーテックでした。認知症フレンドリーなまちづくりには、エンジニアの人に福祉関係者が現況を伝えることで作りだせることがあります。これからは様々なテクノロジーを当事者が工夫することで使えることが出来たら、脳の代わりになるというようなお話も当事者から出ていました。認知症になる前から携帯電話を使っていくことで、備えになるという提案もありました。このテーマを示した時、難しすぎるのではという声もありましたが、アンケートの中に、「すごい気付きがあり良かった」「これからの展開が楽しみ」「目から鱗でした」などの声がありました。当事者の声をしっかり聴くことで可能性が広がると思いました。

(実行委員 阿部かおり)



各委員会からのお知らせ

企画委員会からのお知らせ

企画委員会からのオンライン研修のご案内です。

「地域と共に作る若年性認知症の家族会」というタイトルで、「若年性認知症の人と家族と地域の支え合いの会「希望の灯り」」の下園さんにお話いただきます。

2月24日（土）13:30～16:00

（参加費2,000円）

受講対象者は、当協議会の会員さんだけでなく、家族、支援者、自治会、地域包括、社協など幅広く考えています。会員団体の皆様の他、上記の方々等にも添付の案内チラシを拡散いただけると幸いです。どうぞ宜しくお願い致します。

ご不明な点がございましたら、企画委員の来島までお問合せ下さい。

電話番号：042-843-2498

物流（BASE事業）委員会からのお知らせ

南部藩セット6,000円（送料込み）

※南部藩とは現在の岩手県中部を地盤に青森県東部から秋田県北東部にかけての地域を治めた藩です。藩主が南部氏だったため南部藩とも呼ばれています。

主に八戸藩の商品を詰め合わせておりますが、注文の際におかず系とかお酒のおつまみ系とリクエストいただければ厳選してお届けします。びっくり箱のようなセットですので、是非1度お試しください。

ご注文はQRコードからどうぞ。



今回の目玉商品



赤い羽根

赤い羽根プロジェクトチーム

赤い羽根プロジェクトチーム

2023年度 赤い羽根福祉基金（若年性認知症の家族会立ち上げ支援とネットワーク作り活動事業）の活動が始まりました。9月より2期目が動き始めました。今年度は「家族会立ち上げ支援5件」「立ちあげマニュアルの改訂・更新」「1期目の立ち上げ家族会のフォローアップ」「立ちあげ支援者養成研修の実施」が活動の目標となっています。

今年度として、静岡・福岡・大阪・横浜での立ち上げ支援希望があり、話を進めています。昨年度立ち上げを行った沖縄・新潟の関係者とも連絡を取りフォローを行っています。また、2月18日には、昨年度立ち上げ団体と今年度立ち上げ希望者の交流会を予定しています。立ち上げた実際の話や、今年度立ち上げ準備を始めて疑問に感じたことなどをお互い意見交換を行います。立ち上げ支援者養成研修は、12月にオンラインにて実施しました。2月18日に、東京で対面式の研修会を実施する予定です（現在、参加希望者は10名）

来年度に向けて計画を作成しています。今年度立ち上げ募集に間に合わなかった地域から、来年度の支援希望も話が出ています。

今年度は駆け足での赤い羽根プロジェクトの活動となりましたが、来年度は3期目になりますので、協議会の活動として取り入れることができるように、活動をまとめる事のできる年になることを願っています。

あとがき

早いもので、新しい年が始まり1か月が経ちました。今年も年4回会報を発行していく予定です。協議会の活動を会報を通じて多くの人に若年性認知症に関する情報を届ける事ができるように今年も頑張ります。先日、会報用の記事の打ち合わせ連絡のためにマイWayさんと連絡を取り合った会報委員のコメントです。

「マイWayさんご縁を頂いたおかげで、先月は神奈川県さんのZoom研修にも参加させていただきました。障害や疾病の有無にかかわらず改めて働くということの意味について考える機会になりました。ご縁をいただきありがとうございました。」

委員会の活動を通して、他団体の活動を知る機会になったそうです。こんな繋がりが今年も沢山あるように活動できるといいなと感じました。